

学びの風便り

リーディングスクール通信 46 R7.7.15

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 筑摩野中学校・梓川小学校

筑摩野中学校 「問いのシンカ」を目指して

筑摩野中学校では、この2年間、「協働の学び～対話を基盤とした授業づくり～」をテーマに、4人グループを基本とした授業づくりに取り組んできました。今年度は「協働的で探究的な学び」をテーマにより深い学びを目指し、「広がる問い」「深まる問い」「高める問い」の3観点で「問い」に重点をおき研究を進めています。

5月1日には麻布教育ラボの村瀬先生をお招きし、授業づくり研修（授業クリニック）を行いました。共同参観を行った1年生の理科では、10種類の植物の名前や特徴の書いてある短冊が各グループに配布され、「これらを分類するとしたら？」という先生の問いかけのもと、授業が始まりました。生徒たちが種子植物とそうでない植物を分けたところで、先生は「2つに分けられたね、これで分類したと言ってもOKなんだけど…」と問いかけます。これまで、様々な植物の特徴を学んできた生徒たちは口々に「え？」「よくない」「もう少し詳しくやろうよ」「もっと分けられる」と異議を唱えます。「これまでの学びを活かしてさらに細かい分類の仕方を考えたい!」という問いが立ち上がり、意欲が一段と高まりました。その後、一人ひとりが分類チャートを作成し、グループ内での中間発表では「いいね!」「なるほどね」という言葉が飛び交いました。

授業後、村瀬先生からは、「教えたいことを生徒自身に発見させる授業であり、生徒同士が認め合っている授業ですね」と、講評があり「問いの大切さ」「協働的な学びの良さ」など、今まで2年間筑摩野中学校が取組んできた授業の成果を先生方と共有する時間となりました。さら

に、「問いの分類」（右図参照）を示しながら「50分の学びの中に段階的に『問い』があることで、学習者同士が自然と学び合い、学びが深まっていくこと」を具体的な事例をもとにお話いただきました。

6月27日～7月22日には「授業を見合う月間」として、校内研究グループ（ラーニンググループ：LG）の先生たちが、お互いの授業を見合う機会としています。終業式後には、どんな豊かな学びがあったか、LGで振り返りを行う予定です。

「対話を基盤とした授業づくり」の成果

筑摩野中学校では、多くの授業で、ふとした疑問や考えを生徒が近くの生徒につぶやき、またその生徒が答えるというように、自然な対話が生まれています。また、積極的に自分の考えを語る生徒だけでなく、さまざまな生徒が考えを表現しようとしています。生徒たちがお互いを尊重し合い安心して語り合う関係性が育まれていることが伝わります。これを筑摩野中の先生たちは、「4人グループでの協働的な学びに、すべての教室で挑戦を続けてきた成果」と手応えを感じています。今年度はさらに学校全体で「問いのシンカ」にチャレンジしていきます。



【レベルで問いを分ける】

- ・事実の問い 〈広がる〉
- ・議論の問い 〈深まる〉
- ・概念の問い 〈高める〉→教科の見方・考え方

【時系列で問いを分ける】

- ①導入=誘い込む問い 〈広がる〉
- ②中心=考える問い 〈広がる〉 〈深まる〉
- ③終末=表現する問い 〈深まる〉 〈高める〉

【性質で問いを分ける】

答えがある問い Closed

答えがない問い Opened

* 梓川小学校 協働的に学び「探究的な授業づくり」をめざす！

職員研修を重ね、協働的に学ぶよさを実感！

リーディングスクール校として、今年度より「その子とその子らしく学ぶ探究的な授業の実現 ～核となる単元・題材を軸にして～」をテーマに研究を進めている梓川小学校。「テーマを実現するためには、どのような授業づくりをすれば、子どもが探究的に学んでいくのか、お互いの思いやアイデアを交流し合い、先生同士対話を豊かに協働的に学ぶことが大切ではないか」と考え、研究主任が中心となり職員研修を重ねています。

第1回の職員研修(5/12)では、小学校時代の授業のエピソードを語り合うこと通して、職員の間を深め、一人一人が「楽しい授業とはどんな授業か」思いを共有し合いました。第2回の職員研修(6/9)では、「探究的な授業づくり」につながる核となる単元・題材を考える**協働的な学びの場**となることを願い、学年ごとウェビングマップづくりにチャレンジし、学年の仲間でアイデアを交流し合うと、学びの可能性が広がることに気づきました。(松本市ホームページ「リーディングスクール『実施校の取組状況紹介』」参照)

2回の研修を終え、研究主任の山守先生は、「学年ごとだけでなく、**学年を超えてアイデアを交流し合い協働的に学ぶ**と、探究的な学びの可能性が広がり、さらに豊かな学びにつながるのではないか」との思いを強くしました。そこで、研究部の先生方や教頭先生と相談し、次のような研修を企画・実施しました。

こんな活動ができれば楽しいな！(学年の先生方とアイデアを交流する)

最初に学年ごと前回作成したウェビングマップをもとに、「核となる単元・題材」について、この時期にどんな活動ができそうか学年で様々な思いやアイデアを出し合い、模造紙にまとめていきました。20分という短い時間でしたが、どの学年も豊かな対話を重ねながら、核となる単元の活動の可能性を広げていきました。



もっとこんな活動もできる！(他学年の先生方とアイデアを交流し合い、学びの可能性を広げる)



次は、各学年一名を残し、他の先生方は「自分が行きたい学年」に行き、アドバイスやアイデアを語る時間。ここで先生方の知見や経験の豊かさが発揮されます。「梓川には選果場もあるから行くといいよ」「りんごの品種はたくさんあり、7月や8月にも収穫されているよ」など、様々なアドバイスが出され、模造紙にいくつもの「新たな活動や情報」が書き込まれました。学年に残った先生には、「新たな気づき」となるアドバイスの連続で、学年を超えてアイデアを交流し合うと、学びの可能性が広がることに気づく機会になりました。

こんな活動もできるんだ！(単元構想を振り返り、協働的に学ぶよさを実感)

最後は、自分の学年に戻り、どんなアドバイスがあったか説明を聞いた後、学年での振り返り。「梓川にこんな所があるとは知らなかった」「今も収穫できる品種があるなんて驚き」など、「先生方が混ざり合い協働的に学ぶよさ」を実感し、より豊かな学びの可能性を見いだすことができました。



「協働的に学ぶ」雰囲気さらなるシンカを！

今年度より赴任された松尾教頭先生は、今回の研修を振り返り、次のように話されました。

研修後、「単元構想」の模造紙を職員室に掲示しました。改めて学年を超えてみんなで考える協働的に学ぶ場になったなと感じています。これも職員研修を重ねてきたことと、研究主任の熱い思いと願いが、他の先生方にも伝わったので、あのような有意義な研修となったのかなと考えています。私は、そういうみんなで進めていく研究が理想かなと考えているので、これからもみんなで学ぼうとするこの雰囲気をさらにシンカさせたいです。



職員研修を重ねながら「協働的に学ぶよさ」を感じている梓川小の先生方。子どもたちが「探究的に学びを進めていく姿」を思い浮かべながら、先生方も協働的に学びシンカし続けます。